

露伴全集

第十三卷

露伴全集

第十三卷

昭和二十六年一月十五日印刷  
昭和二十六年一月二十日發行

露伴全集第十三卷

頒價四百貳拾圓

著作權者

幸かち

田た

文あや

編纂

蝸くわ

牛ぎう

會くわい

發行者

東京都千代田區神田一ツ橋二丁目三番地  
岩波雄二郎

印刷者

東京都西多摩郡霞村根ヶ布三八五番地  
山田一雄

印刷所

東京都西多摩郡霞村根ヶ布三八五番地  
大化堂

發行所

株式會社

岩波書店

電話(代表)九段33)二八七番  
振替口座東京七四四一六番



影撮春年三十三治明

我之<sup>3</sup>後<sup>4</sup>。素<sup>5</sup>是<sup>6</sup>也<sup>7</sup>。通<sup>8</sup>于<sup>9</sup>  
 茶<sup>10</sup>人<sup>11</sup>自<sup>12</sup>是<sup>13</sup>語<sup>14</sup>。請<sup>15</sup>。一<sup>16</sup>  
 馬<sup>17</sup>子<sup>18</sup>乘<sup>19</sup>之<sup>20</sup>。與<sup>21</sup>之<sup>22</sup>。一<sup>23</sup>  
 杖<sup>24</sup>。子<sup>25</sup>衣<sup>26</sup>。杖<sup>27</sup>。吹<sup>28</sup>。之<sup>29</sup>。也<sup>30</sup>。

其一

通<sup>1</sup>之<sup>2</sup>。以<sup>3</sup>。之<sup>4</sup>。也<sup>5</sup>。  
 胡<sup>6</sup>。也<sup>7</sup>。之<sup>8</sup>。也<sup>9</sup>。  
 以<sup>10</sup>。之<sup>11</sup>。也<sup>12</sup>。  
 以<sup>13</sup>。之<sup>14</sup>。也<sup>15</sup>。

其二

三<sup>1</sup>。之<sup>2</sup>。也<sup>3</sup>。  
 一<sup>4</sup>。之<sup>5</sup>。也<sup>6</sup>。  
 廣<sup>7</sup>。之<sup>8</sup>。也<sup>9</sup>。  
 聖<sup>10</sup>。之<sup>11</sup>。也<sup>12</sup>。

經<sup>1</sup>。之<sup>2</sup>。也<sup>3</sup>。  
 指<sup>4</sup>。之<sup>5</sup>。也<sup>6</sup>。  
 吃<sup>7</sup>。之<sup>8</sup>。也<sup>9</sup>。  
 了<sup>10</sup>。之<sup>11</sup>。也<sup>12</sup>。

其四

夫<sup>1</sup>。之<sup>2</sup>。也<sup>3</sup>。  
 上<sup>4</sup>。之<sup>5</sup>。也<sup>6</sup>。  
 夫<sup>7</sup>。之<sup>8</sup>。也<sup>9</sup>。  
 夫<sup>10</sup>。之<sup>11</sup>。也<sup>12</sup>。

# 目次

露團との歌 明治二十二年二月

雪紛との歌 明治二十二年二月

琴唄風前虹 明治二十三年四月

寶の藏の歌 明治二十五年七月

うすらひの歌 明治二十六年三月

新浦島の歌 明治二十八年一月

撈蝦兒の歌 明治二十九年十二月

おろかなる鳥の歌 明治三十年四月

## 詩集心のあと

無題 明治二十二年八月

述懐 明治二十二年十月

一

五

九

一三

一八

一九

二二

三〇

三五

三九

おふみ様を弔ふ 明治二十三年十一月

竹馬 明治二十三年二月

春晝病後 明治二十三年二月

土筆 明治二十三年三月

俚歌木蘭花 明治二十三年四月

無言非無意 明治二十三年七月

露 明治二十三年七月

あまのじやく 明治二十五年一月

即興 明治二十五年七月

老少問答

心の  
あと 出廬

第一篇 明治三十七年三月

第二篇 明治三十七年三月

第三篇 明治三十七年六月

四一

四四

四六

四七

四八

五〇

五一

五二

五四

五六

七一

七九

一三四

二〇二

第四篇 明治三十七年七月

二八五

那須野 明治三十八年一月

三四七

短詩

藤 明治二十九年二月

三五九

僧の戀 明治二十九年二月

三六一

初日の出 明治三十三年一月

三六二

落花塚 明治三十五年四月

三六五

齋藤綠雨君を弔す 明治三十七年四月

三六七

野口米氏に寄す 明治三十七年九月

三七一

近作一篇 明治三十八年五月

三八三

羽拔鳥 明治三十九年五月

三八五

春の品川灣 明治三十九年六月

三八六

秋の利根川 明治三十九年六月

三八七



あはびの珠	明治三十九年八月	三八九
しやぼん球	明治三十九年八月	三九〇
水精の玉	明治三十九年八月	三九二
夏草	明治三十九年九月	三九四
五月雨	明治三十九年九月	三九五
下町歩夜釣	明治三十九年九月	三九六
新利根川邊	明治三十九年十二月	四〇〇
手函の繪	明治四十二年五月	四〇二
アンソミア		四〇三
空		四〇五
晝		四〇六
狂體		四〇七
函根	明治四十四年五月	四〇九
山中雨後	明治四十四年五月	四一〇

底倉春雨 明治四十四年五月

塔の澤 明治四十四年五月

長江孤客 明治四十五年六月

午時 明治四十五年六月

水鶏鼓 明治四十五年六月

拂曉 明治四十五年六月

書齋の牡丹 大正二年六月

無題 大正二年六月

淺き春の夕 大正四年四月

もやし獨活 大正四年四月

### 俗曲

すがり

花

ゆめ

四一

四二

四三

四四

四五

四六

四七

四九

四三

四四

四二九

四三〇

四三一

達磨さん

四三二

俚歌七種

四三三

校歌

東京府立第七中學校校歌

大正十一年四月

四三九

墨堤春秋

四四一

前橋市桃井小學校校歌

大正十三年三月

四四四

祖先のかたみ

四四七

後記

四五一

# 露團の歌

秒針べうしん ひまきの響ひまきに驚おどかず、

時鐘じしょうの音ねにも驚おどかず、

日の傾かたむくにも驚おどかず、

月の移うつるにも 年の流ながるゝにも驚おどかず。

唯ただ一生いっせいの 夢ゆめの終はつりに

驚おどく人の 愚おろかなる、

草くさの露つゆより もろき身みの

限かぎりを何い日つと 誰たれか定さだめん。

○

夢よ 夢よ あはれの夢よ、汝は何處より 來りしや。

汝は感覺といへる 鋭き風の 力弱き時、

思想といへる 柔らかき土の 潤ひ多き所より、

幽に咲出し 花なれや。

あら美し、あらいたいけなり。

さもあらばあれ、情なき風 また吹かば、

果敢なかるべき 幻の如き香をのみ 人の胸にのこして、

其色は 白雲の上にあや 吹入れらるゝならんか、

其 俯は 青海の底にあや 吹沈めらるゝならし。

○

眺むれば、いとゞだに

昔の事の 忍ばるゝ。

陰らばくもれ、秋の夜の

月に恨は あらじな。

打見れば、いやましに

浮世の事の 悟らるゝ。

かくさば隠せ、秋の夜の

雲に恨も あらじな。

風の前には 花おもしろく、

雲の間には 月の尊とさ。

雲風しげき 人の世に、

戀の道こそ 微妙けれ。

○

可憐の少女は麗はしき天上の三日月をとりて髪を飭るの櫛となさんと欲すれども、  
風流の韵士は誰れか園中の薔薇を折て瓶に挿むの花となすを願はんや。

白薔薇、

暁天あかつきの空にきらめく 星の影おちの落おちて氷こほりしか、  
冷風すまかせに香かを吐かく、

さては白薔薇 一輪咲きしな。

さもあらばあれ、

色は眼こころに、香におひは袖そでに 深くも染しみてあるものを、  
何とて人の 心なく折らんとするぞ、

心なや。

(明治二十二年二月)

# 雪紛々の歌

夫は關山をうとくわんざん 遙はるかなる

胡境こきやうの軍いんぐさに ありと聞く。

妻は山家やまがの ひとりずみ、

うれたき庭も あれはてゝ、

八重やへに鬼蔦おどろた 這はは添そひし

櫛こしの柱はしらに 身みをもたれ、

力ちからもなげに 打見うちみやる

あなたの空らぎの 浮雲うきぐもは、うき雲うきぐもは、

修羅しゆらのちまたに 飛とびちがふ

駒こまの蹄ひづめに たつ塵ちりか。

あゝら英雄ひつぎやう 畢竟ひつぎやう馬前ばぜんの塵ちり、



吾夫はや。

あゝら鐵壁、空しく倒ふれて、  
殘灰冷やかなり、

吾夫はや。

折からさつと 山下風、

窓打つ音の さら／＼／＼、落葉か雨か。

兜の鎧垂 眉庇や

鎧の小袖 上袖に、

霰の如く 落かゝる 矢玉もかくこそ。

あゝら矢石 無情にして人を擇す、

吾夫はや。

楓 檻の木 漆の木、

からくれなゐに 染なせる

野山の紅葉は 敵味方、